

環境放射能測定実施計画

令和8年2月

宮 城 県
女 川 町
石 巻 市
東北電力株式会社

沿革

平成 20 年 5 月 29 日	作成
平成 21 年 6 月 1 日	一部改定
平成 31 年 3 月 8 日	一部改定
令和 5 年 5 月 30 日	一部改定
令和 7 年 2 月 18 日	一部改定
令和 8 年 2 月 16 日	一部改正

環境放射能測定実施計画

1 目的

この計画は、「女川原子力発電所環境放射能及び温排水測定基本計画」に基づき実施する環境放射能測定に係るモニタリングステーションにおける測定項目、環境試料の採取計画及び環境試料の前処理方法の詳細な事項を定めたものである。

2 モニタリングステーションにおける測定項目

各モニタリングステーションにおける測定項目は表1のとおりとする。

3 環境試料の採取計画

環境試料の種類、採取時期、採取地点及び採取頻度は表2のとおりとする。また、採取地点の区分を図に示す。

4 環境試料の前処理方法

環境試料の前処理方法は表3のとおりとする。

5 施行日

この計画は、令和8年4月1日から施行する。

表1 モニタリングステーション（MS）における測定項目

MS名	項目	設置者	空間ガンマ線量率	空間ガンマ線スペクトル	風向・風速	感雨及び降水量	土壌水分	気温	日射量	放射収支量	大気浮遊じん中の全アルファ放射能濃度及び全ベータ放射能濃度
女川		地方自治体	○	○	○	○	○	○	○	○	
飯子浜		"	○	○	○						○
小屋取		"	○	○	○	○					
寄磯		"	○	○	○	○					
鮫浦		"	○	○	○	○					○
谷川		"	○	○	○						
荻浜		"	○	○	○	○					
塚浜		施設者	○	○	○						
寺間		"	○	○	○	○					
江島		"	○	○	○	○					
前網		"	○	○	○						

該当項目を○印で示す。

表2 環境試料採取計画

区分	対象物	試料名	実施者	地点数	頻度 回/年	試料数 ^(注1) 試料/年	採取地点名	採取時期	
陸上試料	農産物	精米	地方自治体	1	1	(1) 1	谷川浜	収穫期	
			施設者	1	1	(1) 1	大原浜	収穫期	
		大根	根	地方自治体	2	1	2	女川浜、小湊浜	収穫期
				施設者	2	1	2		
			葉	地方自治体	1	1	1	付替県道	収穫期
				施設者	1	1	1		
	陸水	水道原水	地方自治体	2	2	[4] 4	女川浜、泊浜	7、1月	
			施設者	1	4	[2] 4	針浜	毎四半期	
	陸土	未耕土	地方自治体	2	1	2	谷川浜、 ※大崎市岩出山	6月	
			施設者	1	1	(1) 1	牡鹿ゲート付近	12月	
	浮遊じん	浮遊じん	地方自治体	2	12	24	モニタリングステーション (女川、寄磯)	毎月	
			施設者	2	12	24	モニタリングステーション (塚浜、前綱)	毎月	
				2	4	8	モニタリングステーション (寺間、江島)	毎四半期	
	降下物	雨水、ちり	地方自治体	2	12	24	女川町浦宿浜 ※仙台市宮城野区幸町	毎月	
				3	4	12	飯子浜、鮫浦、谷川浜	毎四半期	
			施設者	2	12	24	小屋取、牡鹿ゲート	毎月	
				2	4	8	塚浜、付替県道	毎四半期	
	指標植物	ヨモギ	地方自治体	2	1	(2) 2	谷川浜、 ※大崎市岩出山	7月	
			施設者	1	1	(1) 1	付替県道	7月	
		松葉	施設者	1	4	(1) 4	小屋取	5、8、11、2月	
2				2	4	牡鹿ゲート付近、 付替県道	5、11月		
海洋試料	魚介類	アイナメ	地方自治体	1	1	(1) 1	前面海域	漁期	
			施設者	1	2	(1) 2	前面海域	漁期	
		マガキ	地方自治体	4	1	(2) 4	野々浜、尾浦、分浜、 ※気仙沼(各地先)	漁期	
			施設者	1	2	(1) 2	飯子浜(地先)	漁期	
		エゾアワビ	地方自治体	1	1	1	放水口付近	漁期	
		キタムラサキウニ	施設者	1	1	1	小屋取(地先)	漁期	
	マボヤ	地方自治体	2	1	(1) 2	小屋取、塚浜(各地先)	漁期		
		施設者	1	1	(1) 1	小屋取(地先)	漁期		
	海藻	ワカメ	地方自治体	2	1	(1) 2	放水口付近、前面海域	漁期	
			施設者	1	2	(1) 2	放水口付近	漁期	
	海水	表層水	地方自治体	1	2	共沈法 ^(注2) [2] 2	放水口付近	5、11月	
					6	迅速法 ^(注3) 6		5、8、9、 11、2、3月	
				1	2	2	鮫浦湾	5、11月	
1				1	[1] 1	※気仙沼湾	10月		

表2 環境試料採取計画（続き）

区分	対象物	試料名	実施者	地点数	頻度 回/年	試料数 ^(注1) 試料/年	採取地点名	採取時期
海洋試料	海水	表層水	施設者	1	4	共沈法 4 (1) [2]	放水口付近	4、7、10、 1月
					6	迅速法 6		4、6、7、 10、12、1月
			1	4	[2] 4	取水口付近	4、7、10、 1月	
	海底土	表層土 (砂)	地方自治体	2	2	4	放水口付近、鮫浦湾	5、11月
			施設者	1	1	1	※気仙沼湾	10月
	指標 海産物	アラメ	地方自治体	1	2	灰化法 ^(注4) (1) 2	放水口付近	8、11月
						迅速法 ^(注5) 2		
			施設者	1	2	灰化法 4	※対照海域の2地点 (北側、西側)	8、11月
						迅速法 4		
			施設者	1	2	灰化法 (1) 2	前面海域	8、11月
						迅速法 2		
		施設者	1	2	灰化法 2	周辺海域	8、11月	
					迅速法 2			
		施設者	1	2	灰化法 2	※対照海域(南側)	8、11月	
					迅速法 2			
		エゾノネジ モク	地方自治体	1	2	灰化法 (1) 2	放水口付近	5、2月
						迅速法 2		
	施設者		1	2	灰化法 4	※対照海域の2地点 (北側、西側)	5、2月	
					迅速法 4			
	施設者		1	2	灰化法 (1) 2	前面海域	5、2月	
迅速法 2								
施設者	1	2	灰化法 2	周辺海域	5、2月			
			迅速法 2					
施設者	1	2	灰化法 2	※対照海域(南側)	5、2月			
			迅速法 2					
ムラサキ イガイ	地方自治体	1	2	2	前面海域	4、10月		
	施設者	1	2	(1) 2	前面海域	7、1月		
合計			地方自治体	41		125 (10) [7]		
			施設者	33		137 (13) [6]		

(注1) 試料数は、ゲルマニウム半導体検出器による測定試料数を示す。また、Sr (ストロンチウム) 90は()で、H-3 (トリチウム)は[]で、それぞれの測定試料数を示す。

(注2) AMP-MnO₂ (リンモリブデン酸アンモニウム二酸化マンガン) 共沈法による。

(注3) マリネリピーカーにより、未処理海水を測定する方法による。

(注4) 試料を乾燥及び灰化して測定する方法による。

(注5) 試料を生のまま又は乾燥後、粉碎して測定する方法による。

※印は、比較のための対照地点(海域)であることを示す。

図 採取地点の区分

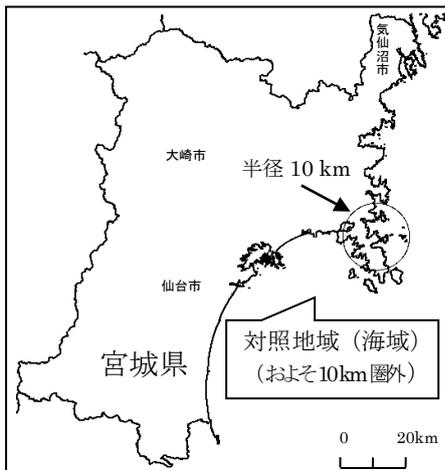
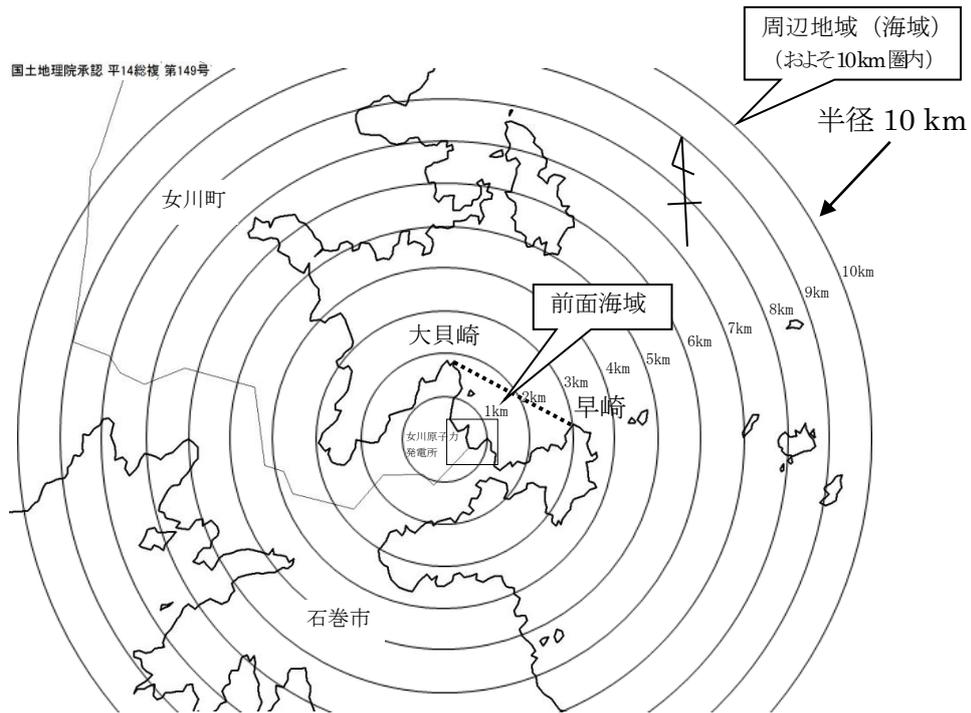


表3 環境試料の前処理方法

区分	対象物	試料名	前処理方法	
陸上試料	農産物	精 米	灰化	
		大根	根	灰化
			葉	灰化
	陸 水	水道原水	蒸発乾固	
	陸 土	未耕土	乾燥	
	浮遊じん	浮遊じん	直接又は灰化	
	降下物	雨水、ちり	蒸発乾固	
	指標植物	ヨモギ	灰化	
		松 葉	灰化	
	海洋試料	魚介類	アイナメ	灰化
マガキ			灰化	
エゾアワビ			灰化	
キタムラサキウニ			灰化	
マボヤ			灰化	
海 藻		ワカメ	灰化	
海 水		表 層 水	AMP-MnO ₂ 共沈 未処理 ^(注1)	
海底土 (砂)		表層土 (砂)	乾燥	
指標 海産物		アラメ	灰化	
			生又は乾燥 ^(注2)	
		エゾノネジモク	灰化	
	生又は乾燥 ^(注2)			
ムラサキイガイ	灰化			

(注1) I (ヨウ素) -131も測定対象とするため。

(注2) I - 131を測定対象とするため。